

平成三二年度 島根県立大学 総合政策学部

一般入試（前期日程）個別学力検査試験問題

国語

【試験時間 90分】

注意事項

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題は1ページから17ページまであります。開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は直ちに申し出てください。
3. 解答用紙は6枚あり、問題冊子とは別になっています。また、解答は縦書きで記入してください。
4. 受験番号、氏名は6枚の解答用紙の所定の欄すべてに記入してください。
5. 問題冊子の余白は、下書きに利用してもかまいません。
6. 試験時間中の退出はできません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第一問 次の文章は、日本文藝家協会編『短篇ベストコレクション…現代の小説二〇一七』収録の森絵都もりえとの「青空」あおぞらである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

(設問のため文章を一部変更した。)

問一 傍線部 A～E を漢字で丁寧に記しなさい。

問二 傍線部 (ア)～(オ) の読みがなをひらがなで記しなさい。

問三 傍線部 (一) 「八ヶ月前に妻が逝って以来、それは息子が初めて口にした母を求める声だった。」とあるが、この八ヶ月の間、主人公に対する息子・恭介の態度はどのようなものだったのか。本文の内容に即して三十字以上四十字以内(句読点等を含む)で書きなさい。

問四 傍線部(二)「走馬燈モード」とはどのような状態を表現しているのか。十五字以上二十五字以内(句読点等を含む)で答えなさい。

問五 傍線部(三)「私の心は決まった。」について、次の二つの問いに答えなさい。

一 私はどのように心を決めたのか。心を決める以前の心境を踏まえたうえで、三十五字以上四十五字以内(句読点等を含む)で答えなさい。

二 なぜ「私の心は決まった。」のか。主人公の心情が変化した理由を、八十字以上百字以内(句読点等を含む)で述べなさい。

第二問 次の文章は、『毎日新聞』平成三〇年五月一日の社説「残り1年の平成時代 元号の持つ意味を考える」である。これを読んで後の問いに答えなさい。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

(注) 連合軍司令部 (GHQ) ゼネラル・ヘッド・クォーター (GHQ) は元来軍事上一般に設けられるものであるが、日本では特に第二次世界大戦後連合国がポツダム宣言および降伏文書に基づいて対日占領政策にあたるため、一九四五年八月横浜に設置した連合国最高司令官の機関をいう。

問一 元号法制化の議論における反対理由を本文から抜き出して箇条書きで二つ、簡潔に示しなさい。

問二 問一のような反対派の懸念にもかかわらず、元号廃止を求める声が高まらなかったのはなぜか、問一の解答に対応する形で本文の内容から二〇〇字以内 (句読点等を含む) で説明しなさい。

問三 この社説の筆者は、今後の日本で元号と西暦をどのように扱うべきだと述べているか、本文の内容から一〇〇字以上く一二〇字以内 (句読点等を含む) で説明しなさい。

第三問 次の文章は、『農林金融』第七一巻第一号（二〇一八）の植田^{うえだのぶひろ}展大の論文「農業競争力強化に向けた制度改革と農業政策の課題」の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

著作権保護のため、現在ホームページで問題文は公開できません。

(設問のため脚注を省略した。)

(注1) 全農

全国農業協同組合連合会の略称であり、北海道を除く日本全国の農業協同組合・経済農業協同組合連合会・専門農協の連合会などの連合組織のこと。

(注2) 単位農協

農業協同組合法に基づいて、15人以上の農業者によって設立される協同組合のこと。

(注3) 新基本法

新政策を受けて99年に成立した「食料・農業・農村基本法」のこと。食料の安定供給の確保、農業の多面的機能の発揮、農業の持続的な発展、農村の振興などについての基本理念およびその実現を図るために基本となる法律が定められている。

(注4) TPP・EPA

貿易の自由化に加え、投資、人の移動など様々な分野での幅広い経済関係の強化を目的とする協定のこと。EPAが一般的な経済連携協定のことを指すのに対し、TPPは環太平洋地域の国々による経済連携協定のことを指す。

(注5) 新政策

92年に策定された「新しい食料・農業・農村政策の方向」のこと。農業・農村をとりまく新しい事態に対応するために施策の方向をとりまとめたもので、これに基づき農業経営体の育成や中山間地域振興のための施策が導入された。

問一 傍線部(ア)く(オ)の読みがなをひらがなで記しなさい。

問二 傍線部(1)「日経調報告書が描く将来の農業像」とあるが、具体的にそれはどのような「農業像」であるか、一〇〇字以上、一五〇字以内(句読点等を含む)に要約しなさい。

問三 傍線部(2)「競争力強化路線からの転換の必要性」とあるが、筆者はなぜ「転換」が必要と考えているか、その理由を二つ、それぞれ一〇〇字以上、一五〇字以内(句読点等を含む)に要約しなさい。